

どのような先生がよい先生なのか

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 私は、教育経営品質研究会という勉強会を主催しています。年に 10 回ぐらい開催しており、今回（1 月 10 日）は東京の文部科学省の隣にある霞山(かざん)会館で行いました。勉強会には、全国の学習塾の方・学校法人の方・教育関係のコンサルティングをしている方・雑誌社の方など 20 名弱の方々をお招きして、いろいろなことについて議論をしています。
3. 今回の議論の中身は、「先生方の研修・勉強をどのようにしたらよいか」でした。その手前で、よい先生とはどのような先生なのかという、よい先生の条件についての議論がありましたので、今から紹介させていただきます。その上で、放送をお聴きの皆さんと一緒に、よい先生とはどのような先生なのかを考えていきたいと思います。
4. 学校の先生になるには教員免許状が必要ですが、例えば学習塾など学校以外のところの先生になるには教員免許状は要りません。誰でもなることができます。
学校の先生にはよい先生の条件が教員免許状という形で出てくると思っていますので、それ以外の先生も含めてどのような先生がよい先生なのかについて考えてみたいと思います。
5. 学習の成果を決定する要因として一番大切なのは、学習する本人(児童・生徒・学生)が自覚を持っていることと、先生に力量があることだと思います。学習する本人に「自覚しなさい」と言っても、なかなかできません。ですから、学習する本人に自覚を促すことのできる先生はよい先生であると思います。つまり、学習する本人のやる気を奮い立たせることができることが、素晴らしい先生の第 1 条件だと考えます。
6. 学習する本人をやる気にさせるには、先生は新聞や古典等を読んで絶えず勉強し、世の中とは何か・人生とは何かなどについて考えた上で先生としての使命を自覚することが大事であると思います。先生としての使命を自覚しない限り、学習する本人は自覚を持つことができません。そのためにも、先生には勉強すること・勉強し続けることが求められるのです。
7. 繰り返しになりますが、先生は新聞や古典をきちんと読み、人生とは何か・生きるとは何かなどについて勉強することが必要です。また、先生は教科だけ教えていればよいというわけではありま

せん。教えている教科・学校の教育・学習塾の教育は世の中にとってどのように役に立つのかについて自分自身の考えをしっかりと持っていないと、つまり人生哲学というか、社会を見る目を持っていないと、よい教育はできないと思います。ですから、新聞や古典を読んだり、CRT 栃木放送を聴いたりしていろいろな勉強をしていただきたいと思います。

8. 2 番目に大切なことは、教え方が上手なことです。ですから、どのようにすると素晴らしい教え方ができるのかという教え方についての勉強も必要だと思います。これはいろいろな形で勉強できますが、例えば開倫塾では5月の最終日曜日に全国模擬授業大会を開催し、学習塾の先生方の中で誰が教え方が上手なのかを競うコンテストを行っています。これまでに8回実施し、今年は9回目となります。昨年の8回目には450名の方にいらしていただきました。今年は5月25日(日)に足利工業大学附属高等学校をお借りして午前10時頃から午後6時頃まで開催します。詳細については、近くなりましたら再度お知らせいたしますので、興味のある方はぜひ参加したり見学したりしていただきたいと思います。このようにして、全国の優れた先生方の素晴らしい授業を見て、どのようにしたら教え方が上手になるのかを学び、自分の教え方の技を磨くことも大事だと思います。

9. 3 番目に大切なことは、学習する本人からすると先生に教えていただいたものごとが「ああ、これはこういうことなのか」とよくわかることです。そのためには、先生は教える内容がすべて頭の中に入っていないければなりません。ですから、先生は教える教材について事前に十分に勉強して、できれば学習する本人側の10倍ぐらいの時間をかけて勉強して、教える内容をすべて頭の中に入れていただきたいと思います。加えて、どのようにしたらそれをわかりやすく教えることができるのかについても研究することが大事です。

10. また、教材を書いたり作ったりすることができる先生になること、できれば教科書を書くことのできる先生になることも大事です。教材を書いたり作ったりすることができない場合は、他の人が作った教材、例えば学校の教科書や塾のテキストなどを上手に使いこなすことが大事です。そして、教えるときに非常に役立つ教科書の副教材や教具(フラッシュカードなど)を作ったり、使いこなしたりできるようにすることも大事です。その一環として、確認テストや単元テスト、定期テストなどが自分の力で作れると素晴らしいですね。

11. さらに、授業を設計して教案(レッスン・プラン)を書き、毎回の授業を省察(リフレクション)して改善を図ることができる先生・どのレベルの学習する本人にも対応できる先生・多い少ないなど、どのような人数のクラスにも対応できる先生・学習する本人一人ひとりの興味や関心、態度を向上させることができる先生・最終的には教えた教科を好きにさせることができる先生、これも素晴らしい先生の条件であると思います。

12. 今日は、どのような先生がよい先生かについてお話をさせていただきました。放送をお聴きの皆さんも、身近にいる子供たちやいろいろな方々にものごとを教えてください。教えることが自分の資質の向上に繋がります。どうかよろしく願いいたします。